

ドキュメンタリー映画

あめつち
の日々

土に根っこをおろし、
伝統を未来につなぐ。
沖繩本島・読谷村よみたんの
陶工・松田米司と、
しまんちゅたちの物語。

出演 きたがま北窯 松田米司 監督・撮影 川瀬美香





あめつちの
日々

ドキュメンタリー映画

あめつちの日々

沖縄の焼物には無限の魅力がある。

陶工たちは自然と向き合い、体を駆使し、島の土はうつわになる。個人はいらない。ひたすら手を動かせば、沖縄の色、模様、形になる。暮らしを潤すものになる。

1972年沖縄本土復帰後、文化を旗印に再生した沖縄本島読谷村。かつての不発弾処理場は、沖縄文化を象徴する“やちむんの里”として生まれ変わった。

そして92年、松田米司ら四人の若者が夢を託した北窯が、5年の歳月をかけて誕生。

古き良き沖縄の姿をとどめるその窯は、健やかに力強く「今」が鼓動している。今が伝統となる。

読谷山焼 北窯

松田米司 まつだ よねし

1954年 沖縄県読谷村に生まれ

1973年 那覇市 石嶺窯にて修行

1992年 松田共司、宮城正享、與那原正守と
読谷村字座喜味に読谷山焼北窯を開窯

1999年 日本民藝館展奨励賞

2013年 英国 St. Ives Ceramics 個展

2016年 北窯25周年



読谷村

沖縄本島



ストーリー



沖縄県読谷村やちむんの里。六十を超える窯元が集まり、焼き物作がさかんな地区である。四人の親方で営む共同窯「北窯」もここにある。

親方の一人 松田米司。工房では使うための器、伝統工芸品が今日も作られている。故郷 沖縄の土で粘土を作り、自分たちの窯で焼く。

その伝統のスタイルは、かつての風景と変わらない。

とは言え、多くの問題もある。途絶えた伝統技術、そして地元の白土が入手困難になりつつあること。

親方は資材調達のために国内外問わず探し回り、今日はベトナムへ向かう。それは次世代へ伝統を継承するためでもあり、それは新しい伝統工芸のあり方かもしれない。

ベトナムの新しい土で焼き上げたやちむんたち。それは伝統になるのか？

戦争で失われた島の伝統、近くにある米軍基地、毎年やってくる激しい台風。そんなことは「なんてことない」という強さを持った琉球人たちがいる。

生まれた島の土との出会い 職人になって、琉球人として生きる

〈出演〉松田米司 / 読谷山焼 北窯 / 尾久彰三 / 仲里香織 / クライヴ・ボウエン / 山内徳信

〈スタッフ〉プロデューサー 高田明男 / 監督・撮影 川瀬美香「ドキュメンタリー 紫」 / 構成編集 大重裕二

音楽 明星 Akeboshi「恋人たち」 / 題字 ロリレイ / 2015年 / 92分 / デジタル / ビスタ / 5.1ch / 製作配給: Art True Film

Art True Film

essay.tokyo/tsuchi/